

2018年2月9日  
三菱地所株式会社

多様な人財が自然に集まり、繋がることで、新たな価値を創造し続ける「場」を目指して  
**新本社への移転による「常に進化するオフィス」**  
**「街づくりに活かすオフィス」にチャレンジ**

三菱地所株式会社は、2018年1月5日より、「新たな価値を創出し続けるオフィス」の実現に向けて「大手町ビルディング」から「大手町パークビルディング」に本社を移転いたしました。

新本社では、社内外の多様な人財が自然に集まって繋がり、立場等に関係なくコミュニケーションを交わして、新たなアイデアが常に生まれ続ける「場」としていきます。



▲開放的な緑を望む総合受付



▲多様なワークスペース



▲オフィス内での新技術実証実験を多数実施



▲「ワークプレイス×食」のあり方を探るカフェテリア「SPARKLE」

こうしたオフィス環境の下、制度改革やITインフラの整備も含めた「働き方改革」を進めオープンでフラットな企業風土を作り、社員1人ひとりのモチベーションと生産性を高めることで、個々の能力が発揮され、更なる競争力の強化を目指します。

新オフィス環境で得た知見やノウハウは、顧客への提案や将来のオフィスビルの商品企画に活かし、当社の街づくりにも反映していきます。新オフィスでは見学ツアーを顧客・関係者向けに実施し、そこで意見を自らのオフィス環境にもフィードバックすることで「常に終わりのない進化をし続けるオフィス」を目指して参ります。

## 1.競争力の高い企業グループへの変革を目指したオフィス改革・制度改革の実施

### ① オフィス環境改革 ～「場」のあり方を変革することで、社員の行動変革・意識改革を促進

#### ■グループアドレスの導入と事業担当役員個室の廃止

個々人に合わせた「多様」なワークスタイルと、当社ならではの「グループワーク」中心の業務推進スタイルとの両立を図るべく、部署単位の緩やかなゾーンを決めた「グループアドレス」を導入しました。部署の配置は事前の社内アンケートに基づき決定し、旧本社の一部の部署で実施したトライアルを通じて運用についての事前検証を行いました。

各部の部長以下の社員は、ローテーブル/ハイテーブル、大机/個別机など多様な座席から、その日の業務スタイルに合わせて好きな場所を選びます。また、事業担当役員個室も廃止し、スムーズな意思疎通が可能な空間とすることで、経営スピードの向上を目指しています。

同時にペーパーストックレスも推進し、紙でストックしている資料の削減目標を立て、移転前に比して紙の資料を7割以上削減しました。



#### ■「働くスタイル」に応じた多種多様な空間デザイン及び共用スペースの整備

画一的なオフィス空間では無く、フロア毎、用途毎に多様な空間デザインを導入しました。また、一人での作業はもちろん、打ち合わせでも目的や内容に合わせた最適なシーンの選択を可能にする為、オフィス内の随所に多種多様な共用スペースを整備しました。目的に応じてふさわしい「場」を選択することで、意見交換・ひらめきを生み、社員のモチベーション・生産性向上に寄与します。移転前の大手町ビルディング内オフィスと比較すると、共有スペースは面積ベースで2倍、現オフィス全体の3分の1を占めます。



▲気軽にプレゼンテーションができるブース



▲文房具からスナック、飲料まで手に入るカウンター



▲業務はもちろん、打ち合わせや食事にも使えるラウンジ



▲靴を脱いでゆったりとくつろげるスペース

## ■内部階段によるフロア連結

東西2カ所に配置した内部階段により、同一フロア内のみならず「フロア間」の境界を無くして、平面のみならず「縦方向の人の交流」を生み出す空間設計としました。

これにより、ビル共用部を通らず社内各所への行き来が可能となり、機密資料等の漏洩リスクが大幅に低減できると共に、社内の往來を増やすことで偶発的なコミュニケーションに繋がります。更に、階段利用の促進により社員の健康増進にも寄与します。



## ■「ワークプレイス×食」のあり方を探るカフェテリア「SPARKLE（スパークル）」の新設

- ・「社員食堂」としての役割のみではなく、社内外の様々な人々が集い、ランチタイムのみならず1日中活用可能な新しいワークプレイスとしてのカフェテリアを新設しました。新たなアイデア・ひらめきが「スパーク」し、オフィス内や街に広がっていく場にしたいという願いから「SPARKLE」と名付け、三菱地所がデベロッパーとして丸の内での街で取り組んできた様々な「食」関連の取り組みと連携させると共に、彩りや食材、栄養バランスに配慮した日替わりメニューを提供することで、社員の健康増進をサポートしつつ、「食」がもたらすワークプレイスにおける新たな可能性について模索していく場としても活用していきます。
- ・社用携帯電話（スマートフォン）にドリンクオーダーアプリを導入し、離れた会議室等からのカフェテリアのカフェメニューのオーダーを実現しました。出来立てのドリンクで、「働く」をサポートします。
- ・特定非営利活動法人 TABLE FOR TWO が運営する CUP FOR TWO に参加し、対象となるヘルシードリンクを購入することで、購入費に含まれる1杯あたり20円の寄付金を開発途上国の子どもの学校給食1食分として贈ることができます。



## ② 制度改革 ～ 社員の生産性向上に資する施策を導入

### ■テレワーク制度の導入

社員一人ひとりのスタイルに合わせた働き方を実現するため、テレワーク制度を導入しました。自宅からでも社内システムに簡単にアクセスできるプラットフォームを整備しています。

### ■パワーナップ制度（仮眠制度）の導入

パフォーマンス向上のためのパワーナップ（仮眠）制度を導入しました。併せて仮眠室を整備し、積極的に推奨していきます。

### ■インターバル勤務制度の導入

諸制度により働きやすい環境が整備される一方で、休息もしっかりと取り、高い生産性で業務にあたれるよう、前日の業務終了から翌日の業務開始まで一定の休憩時間を設ける「インターバル勤務制度」を導入しました。

### ■朝食の無償提供制度の導入

朝7:00～8:30の間、無償で朝食を提供することで、朝型勤務の促進による社員の生産性向上のほか、朝食の欠食を防ぎ社員の健康もサポートします。

### ■WELL-BEINGプログラムの実施

社員の健康増進を目的にオフィス内で気軽に参加できるフィットネスプログラム等を多数実施しています。

### ③ 「いつでも」「どこでも」ワークを支える IT インフラの同時整備

#### ■働く場所に捉われない多種多様な働き方のサポートシステムを導入

全館無線 LAN を導入したほか、社内ネットワークにリモートでアクセスできる通信環境を整備し、オフィス内外問わずいつでも業務に取り組める IT 環境を整備したほか、オフィス内と同等のコミュニケーションがどこでも可能となる各種ツールを導入しました。

- ・ 社用携帯電話（スマートフォン）のオフィス内内線化
- ・ WEB 会議システムの導入
- ・ 社内チャット機能の導入

#### ■業務用 PC の選択制導入

社員 1 人ひとりの業務特性に応じ、複数の機種から PC を選択できる制度を導入しました。

#### ■社内データベースのクラウド型ファイルストレージ化

容量無制限のクラウドストレージを使用することで、ペーパーレスの推進を支えます。また、社外含む関係者間で資料の共有が簡単にでき、業務効率化・生産性向上をサポートしています。

#### ■AI チャットボットの導入による効率性、生産性向上

電話やメールで対応していた社内 IT のヘルプデスク業務を効率化するために、ユーザーの質問に自動で回答をするチャットボットサービスを導入しました。新オフィスでの IT 施策の浸透をスムーズにするほか、業務効率化を進めて生産性向上に役立てます。

## 2.新本社を先進的取組の「実証の場」として活用し、将来の街づくりへ展開

### ① (株)Liquid と連携した生体認証システムの導入(セキュリティ、キャッシュレス決済)

当社ビルのテナントである (株) Liquid とのコラボレーションにより、最先端の生体（指紋）によるセキュリティ認証システム及び、日本初となる指紋認証と個人口座を連携した社内カフェテリア等で利用可能な決済システムを導入しました。Liquid 社の持つビッグデータ解析技術により、高速かつ正確な認証が可能です。同システムの将来の「街での活用」を視野に入れ、新本社での導入実証実験を重ねて参ります。



### ② 社員位置情報システムの導入（協力：パナソニック株）

「誰が、どこにいるのか把握しづらい」というグループアドレス制の短所を補完するため、事業担当役員を含めた各社員の社内位置情報が把握できるシステムを導入しました。社内コミュニケーションの効率化・迅速化にも寄与するほか、カフェテリアや共用スペースの混雑状況も一目で把握が可能です。



また、社員の位置情報データをビッグデータとしてストックすることで、データの解析を行い、社内の各エリアの利用状況を反映したオフィス空間の進化にも活用して参ります。

### ③ 今後も積極的な技術導入を推進

技術を持つ企業とオフィスビルのプロである当社がコラボレーションし、未来のオフィスの可能性や、将来の街への本格展開を見据え、引き続き新本社を「実証実験」の場として活用して参ります。

（例：当社受付でお客様を会議室までご案内する、(株)日立製作所のサービス支援ロボット「EMIEW3」を用いた実証実験を実施）



本オフィスで使用している電力は、風力・地熱など環境に配慮した方法で発電されたグリーン電力を使用しています。